

福井工業大学

平成20年4月15日発行

後援会会報

福井工業大学
後援会

36

〒910-8505 福井市学園3丁目6番1号
電話(0776)29-2620【大学代表】



尽きぬ探求と志

あわら宇宙電波受信施設は、研究・教育に大きく貢献しています。ここに、受信施設で活躍する研究室の学生達と共にいる大家教授は、最近、月レーダーサウンダーの他、施設での成果として、世界に先駆けたブラックホールの研究成果も発表しています。



平成十九年度 学位記授与式

五六一人羽ばたく

三月十五日午前十時から、平成十九年度福井工業大学の学位記授与式が、早春の晴れやかな雰囲気のか多数の来賓を迎えて、金井講堂において行われた。

城野政弘学長から、大学院修士課程二六人、工学部五三五人に学位記が授与された。

つづいて、城野政弘学長、金井兼学園理事長から次のようなお祝いと饒のことがあった。



学長式辞

「迷った時には必ず前へ」

学 長 城 野 政 弘



本日、ここに平成十九年度学位記授与式を挙行するに当たり、年度末の大変お忙しい中にもかかわらず、ご臨席いただきました来賓各位に厚く御礼申し上げます。

まず始めに、本日福井工業大学ならびに福井工業大学大学院における四年間あるいは六年間の研鑽と努力の結果、卒業を迎えられた五六一名の皆様、心からお祝いを申し上げます。また、保護者の皆様、ご関係の皆様にもお喜びを申し上げます。

大学生活では、皆さんは人生において財産となる数多くの出会いがあったことと思います。大学とは人と深く交わることででき、またそれによって豊かな心を育むことが出来る場です。本学では常日頃から、そのような場を提供できるよう心がけてきました。皆さんは、大学生生活を通じて、専門の知識のみでなく、人間として大きく成長されたことと確信しております。これからの人生においても、大学生生活で得た知識や経験を活かし、社会を支える人材として活躍されることを願っています。

さて皆さんが巣立っていくこれからの社会は、いわゆる「知識基盤社会」の時代であるといわれております。そこでは、

政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域で、新しい知識・情報・技術が活動の基盤として飛躍的に重要性を増し、これらを通して安全と安心な社会の創造が期待されています。しかしながら近年、その科学と技術が人々に大きな不安を引き起しつつありますことも事実です。公害や地球温暖化に見られる環境破壊、化石燃料の多量消費によるエネルギー危機、食の安全性など、身近なところでもマイナスの効果をもたらしています。その意味で、科学技術のあり方と社会との関係について、改めて基本的なところから考えなおさなければならぬ状況に直面しているといえます。また、「技術創造立国」を掲げ、もの作りで発展してきた我が国も、諸外国の追求や工場の海外移転などで、足元が怪しくなりつつあります。それではこれらの問題を解決するためにはどうすればよいのでしょうか。

まず第一に、グローバル化が進む世界で、資源の乏しい我が国が、世界の各国と競争しながら共生していくためには、持続型社会を支え、かつ他者ではまねの出来ない付加価値の高いもの作りを通じて、産業を発展させていくことが必要です。そのため、それを支える技術者

には、単に直面する問題に対応するのではなく、自ら何が問題であるかを考え、それを解決して行く能力が要求されています。言い換えれば、常に自分で考える力を持ち、知識を応用する力を身につけておくことが重要です。

第二には、広い視野と豊かな教養、倫理観を身につけ、ものごとを広い立場から考えることが必要です。現代社会が抱えている問題の多くは、複合的な要因が絡んでいるものです。ある専門の一面からだけで判断するのではなく、広い観点から、何が人類社会にとって大切であるかを見極め、それを基準として行動してください。

第三は、まわりの人とコミュニケーションをとりながら、適切な判断が出来る能力を養うことです。社会における仕事は決して一人では出来るものではありません。異なる分野の知識を集め、あるいは異なる立場の人との相互理解や対話があつてはじめて、安全、安心な社会が築けるものです。

本学では、今申し上げた三つの力を養うため、創造力、人間力、共生力の養成をモットーとして、教職員が一体となつて皆さんと接してきた理由がここにあるわけです。

ところで、皆さんのこれからの進路は多岐に渡ります。大学院へ進まれる方、製造業に就職される方、コンピュータ関係を含むサービス業につかれる方あるいは自宅に戻って自営業を継がれる方もおられるでしょう。したがって皆さんが、



理事長告辞

「常にプライドを持ち、

逞しく生きて！」

理事長 金井 兼

平成十九年度の福井工業大学学位記授与式に当たり、ひとことお祝いを申し上げます。本日は大学院二十六名、工学部五百三十五名、総勢で五百六十一名の卒業生をお送りすることとなりました。先ほど城野学長より晴れの学位記を手にした皆さん、そして本日全国各地よりお越し頂きましたご家族の皆様方に対し、心からお祝いを申し上げます。ご卒業おめでとうございます。

そしてまた本日、この学位記授与式にあたりましては、大変公務ご多忙の中を福井県知事西川一誠様ご名代としまして旭副知事様、そしてまた県内外から、そして各界から多数のご来賓をお迎えすることができましたこと、先ずもって心より厚くお礼を申し上げる次第であります。

今ほどの城野学長の式辞にて、皆さんにお伝えしたことは全て尽きていようかと思えます。今の学長の式辞が卒業生の皆さんにとって本学における学長の最終講義ということになるかと思えます。

さて、いよいよ社会に旅立たれる方、あるいはより学問の真理探究のために大学院に進学される方など、まさに明日からの皆さんの進路は多岐に亘るものかと思えます。しかし、お一人お一人を取り

巻く現在の社会環境は、大変厳しいものであるということがいえるのではないのでしょうか。昨日、この日本の円が十数年ぶりに一ドル、九十八円という異常な円高を記録致しました。これは、日本の産業界に与えるダメージは大変大きいものがあるかと思われまふ。

皆さんは学部あるいは大学院で、この産業界の基盤となる技術となるものを学んで来られました。日本が戦後六十年の間に、今日までの姿に復興したこの原動力は、技術力以外の何ものでもございません。皆さんが身に付けられた技術力というものをこれから遺憾なく発揮されて、混迷を究めるこの日本の経済あるいは世界経済というものに大きく寄与してくれまふようにと心から願うばかりでございます。資源の全くない日本という国に、学長が言われましたように、これらの技術力が身を支えると言っても過言ではありません。

いよいよ学位記をお受けになられた方には、皆さんにはエンジニアとしての責任があります。そして、少子高齢化社会が益々進むこの日本で、日本にあるいは世界を支えていく義務があります。強い信念、そしてそれぞれの国を愛するこ

授業や卒業研究で取り組んだ課題そのものが、卒業後の仕事とぴったりと一致することは、極めてまれなことと思います。しかしながら、課題を見つけ、真実は何かと問いかけ、そしてその解決法を考える手法やプロセスはどんな分野に進んでも共通です。また社会の進歩、変化も急速に進みます。大学で身につけた考える力、知識を応用する力、また人間として生きる力をこれからも絶えることなく磨いていってほしいと思います。

さて、少し話は変わりますが、今年北京で開かれるオリンピックの野球で、日本代表チームの監督を務める星野監督は「迷った時には必ず前へ」を信条にしていると聞いています。中日ドラゴンズの監督から阪神タイガースの監督へ、また、一旦ユニフォームを脱いだ後の日本代表チーム監督の就任には、大変な決断があったことと思います。そのとき星野監督は、人生のプロセスでは、生まれつ

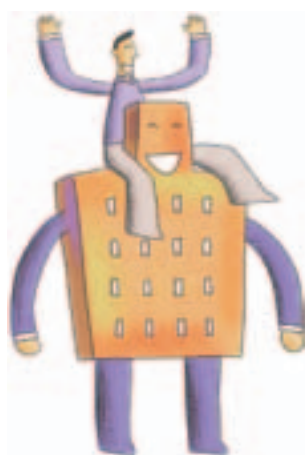
と、地域を思うこと、エンジニアとしてのプライドを常に持ち続けて逞しく生きてくれますようにとを心から願いたいと思います。

先ほど学位記授与に際して読み上げられる学生諸君の出身地をお聞きしておりましても、まさに全国各地、あるいは世界各地へとこの学び舎から巣立たれることとなります。ひょっとするともう一度も会う機会がない卒業生がいるかも知れません。どうか、健康に十分気を付けて、いつまでも健やかに、そして逞しく成長

いた時からの環境や時代に左右されることは否定できないが、全て最後の判断は、自分自身の気持ちや判断で行っているものであり、100%自力本願であると考えているといっています。迷ったとき、同じ後悔をするのなら、前に行き、前に出て後悔の方がよいので、退いて、行かない場合の後悔のほうが、きつとむなしいのではないかと述べています。皆さんも、長い人生、これからのいろいろなことがあろうかと思いますが、自分自身の決断で、是非積極的な人生を送っていたきたいと思っています。

最後になりますが、皆さんは、建学の精神に則り、国を愛し、人間性を養い、科学技術の研鑽に努めてこられました。これからは人類社会の福祉に貢献する番です。進まれるそれぞれの道で、十分な力を発揮され、人類社会の福祉に貢献することを念頭に、活躍されることを祈念して、学位記授与式の式辞といたします。

して下さい。皆さんのこれからの飛躍と活躍を心から願い、そしてご家族ご一同様の益々のご健勝ご多幸を心から願って、学位記授与式の告示と致します。





Entrance Ceremony 喜びの新工大生 平成 二十年度 入学式

平成二十年度入学式は、桜の花がまさに咲き揃うとしている四月五日、金井講堂において多数の来賓、保護者が見守る中、大学院・工学部合わせて四〇六名の新入生が出席して行なわれた。

まず、城野政弘学長から「本日、入学式を迎えられた皆様は、喜びと希望に胸を膨らませていることだろうと推察いたします。あるいはその一方で、新しい大学生活に一抹の不安を感じられているのではないのでしょうか。

そこで、ここでは先ず、本学での教育とということについてお話をいたします。

本学では「創造力」「人間力」「共生力」の三つの力を養成することを目指しています。

皆さんは、これからそれぞれの学科・専攻で、専門の科学や技術について学んでいくこととなりますが、その科学や技術の発展は、我々の生活、広く言えば人類社会を豊かにしてきたことは疑いようもありません。また、今後も科学技術の発展なくしてはわが国の将来はないといえるでしょう。グローバル化が進む中、技術創造立国を標榜するわが国が、世界の各国と競争しながら共生していくためには、新しく付加価値の高い技術開発、もの作りを進めていくことが必要で、社会は新しいことにチャレンジする意欲、創造力をもった技術者としての皆さんが育つことに大いに期待をしているところなのです。

ところが、この科学と技術が近年人々に大きな不安を引き起しつつあることも事実です。公害や地球温暖化に見られる環境破壊、化石燃料の多量消費によるエネルギー危機、食の安全性など、身近なところでも大きな問題となつていきます。建築設計における偽装問題などは論外としても、自分や自分が所属する集団だけがよければよいとするのではなく、何が社会全体あるいは人類社会にとって良いかを考え、人々が力を合わせ、努力をすれば、公害や環境破壊、エネルギーの多量消費などは改善でき、人と環境のバランスがとれた持続可能な社会は実現できるはずです。そのためには、単に

科学技術についての学問的知識を持つだけでなく、広い視野と豊かな教養、倫理観をもつて、主体的なものごとを考え、その技術を適切に応用することが出来る力が必要です。言い換えれば、人間として何が正しいかを判断する能力が求められているといえます。また、もの作りは決して一人ではできません。周りの人とあるいは場合によれば他の国の人ともコミュニケーションをとり、協調して行動することも大切になります。

今申し上げたことが、創造力、人間力、共生力ということであり、本学ではこのような力を皆さんに付けていただきたいと思います。

そこで、このような力を身に付けていただくため本学では、皆さんの学ぶカリキュラ

ムを大きく三つの課程に分けて作っています。

第一は人間教育に分類されるものであり、ここでは人文社会や外国語を含めて、技術者あるいは人間として大切な教養を学びます。第二は工学基礎教育で、数学、物理など学科・専攻にかかわらず必要になる工学の基礎科目であり、第三がそれぞれの学科・専攻に特有の専門科目です。専門科目のみならず、人間教育科目や基礎工学科目の重要性は、もう申すまでもないことと思います。また、その他に本学の特徴ある教育科目として、FTHや創成科学と呼ばれる授業があります。前者はフリー・トーキング・アワーズの略で、少人数の学生と先生でグループを作り、先生方の経験や知識に触れながら定められたテーマについて考え自分の意見を述べることから、学生生活や技術者として必要なことを考え身につける時間であり、また、創成科学では一人一人が興味や疑問を持った課題をみつけ、調査・発表・討論を行うことにより創造性とコミュニケーション能力を養おうとするものです。これらの授業を通じて、国を愛し、人格を磨き、科学技術の研鑽に努め、以って人類社会の福祉に貢献するという「建学の精神」を体現出来る技術者として育っていただきたいと思います。

また、近年の特長として多様な高等学校の課程で学習した学生さんが入学されています。本学では、主要科目について皆さん

の学習歴によって習熟度別クラス編成を行なって授業を進めています。それでもなお理解度が不足する場合には、学習支援室を設け、個人的な学習指導を行っています。わからないときには、遠慮せずに担当教員の先生に相談するか、学習支援室を訪ねてください。また、大学は優秀な学生さんに対しては、大学院一貫教育を実施し、高度な教育や大学院への接続教育を行っています。今全国的にみて、理工系分野では高度な技術者の養成が求められ、大学院教育が重視されてきています。本学でも、大学院の充実にも努めて行きたいと思っていますので、是非大学院進学をも視野に入れて勉学に励んでください。

このように、大学は学科・専攻に応じて適切なカリキュラムを用意するとともに、皆さん一人一人に対して最も適切だと考える教育や指導、支援を行うことを考え、教職員一体となって出来る限りの用意をしています。しかしながら、それを生かすのは皆さんの心がけ次第です。大学が何をしてくれるかではなく、大学で何をするか皆さんにとって最も大事なことです。大学から与えられるものをそのまま受け入れるだけでなく、自分自身で何をしたいのかという目的を持って、何事にも積極的に取り組んでください。

また、大学とは単にそこで授業を受けるだけのところではありません。人との深い交わりを通じて、豊かな情操を養うところでもあります。その交わりは、勉学、課外活動、スポーツなどの学生生活から生まれるものです。これらの活動を通じて人生を考え、自然や人間の素晴らしさに感動できる心を育てることが出来ます。学生時代の

福井工業大学 人事異動

(新任) 平成二十年四月一日付

研究部 長 小林 紘二郎
事務局 長 吉村 喜信
学習支援センター長 中筋 一弘
機械工学科主任 河合 伸泰
建設工学科(土木)主任 齋藤 敏明

(新着任) 平成二十年四月一日付

機械工学科教授 神田 一隆
建設工学科(建築)教授 三浦 英夫
建設工学科(土木)教授 小笹 秦
環境・生命未来工学科教授 増田 俊夫
経営情報学科教授 石田 秀信
教養部 教授 佐々木 武
経営情報学科准教授 笠井 利浩
機械工学科講師 打田 正樹
機械工学科講師 大嶋 元啓
建設工学科(土木)講師 竹田 周平
経営情報学科講師 眞鍋 和弘
教養部 講師 中野多郎右工門
教養部 講師 小田 夕香理
建設工学科(建築)助教 多米 淑人

(退任) 平成二十年三月三十一日付

電気電子工学科教授 白藤 純嗣
電気電子工学科教授 吉永 淳
電気電子工学科教授 藤井 求
機械工学科教授 岡田 東一
機械工学科教授 森 隆資
建設工学科(土木)教授 浜本 剛実
建設工学科(土木)教授 小林 昭一
環境・生命未来工学科教授 橋本 健治
環境・生命未来工学科教授 福味 廣員
経営情報学科教授 柴田 明
宇宙通信工学科教授 林田 和也
教養部 講師 小谷 正典

訃報

前学長 三宅 正宣
(十月二十一日死去)

平成19年度卒業生

寄贈

三月十五日の学位記授与式当日、卒業記念品として「液晶テレビ(十台)とビデオDVDプレイヤー(十一台)」が贈られた。



四年間あるいは大学院での二年間を含め、すと六年間になりますが、これほど時間を自由に使えるときはないでしょう。高校時代は決められた授業や受験勉強で、また、社会に出れば企業の規則に縛られそんなに自由に過ごすことはできません。大学時代は、自分自身で時間の使い方を決めることができる最も大切な期間です。漫然と無為に過ごすのではなく、目的意識をもって豊かで楽しい学生生活を送られんことを期待しています。」と激励された。

次いで、金井兼理事長は「新入生の皆さん入学おめでとう。英知と才能を思う存分に発揮していくのが青春のリズムであり息吹である。鉱物資源に乏しい日本にあって、常に科学技術の振興が国の発展の重要な原動力の一つになっていたのは事実である。そういった意味で、若きエンジニアの一步を踏み出す皆さんは、使命感をもって社会のために尽くしていくための大いに学んで力をつける四年間であっていただきたい。新入生の中にはモンゴル、中国からの留学生の方もいらっしゃる。日本での生活に不安もあるでしょう。皆さんは同じ大学の仲間として、共に助け合いながら大いに友情を育んでいただきたい。」とお祝いの言葉を述べられた。





月周回衛星「かぐや」

大家 寛 (宇宙通信工学科・教授)

き

つと多くの方が「かぐや」からのハイビジョンカメラ映像を楽しんでくださったと思います。我が国が初めて実施した月探査機から送られてきた映像は、私達はあたかも自分たちが、月面上空一〇〇キロメートルを飛翔しながら様々にかわる月のクレーターの様相や、地球が月面地平線から青く美しく上つて来るのを見る思いで、少なからず感動しました。

「かぐや」は二〇〇七年九月一日「月」を目指して発進しました。一九九九年に計画の実施に入つて、八年間にわたつて設計から始まり仮想モデル模擬モデル、そして実装モデルと制作段階を踏み、実機制作後は二年を越す綿密な試験を経て旅立ちました。計画が認められる前は月研究会にて宇宙空間物理学者、宇宙探査機技術者、宇宙工学者が集つて「SELENE」計画プロジェクトを立てました。これは設計計画実施前の二年間にわたりましたから「かぐや」計画そのものは実質一〇年で現実となった訳です。

この計画を立てる科学者の会議は当時

の文部省宇宙科学研究所でスタートしました。しかし会議は今までとは全く違ったものでした。それは現在の宇宙航空研究開発機構（JAXA）として統合される前の科学技術庁のNASDAと文部省の宇宙科学研究所が初めて共同で大型の月探査計画を打ち出したからです。

さてこの会議で話題の中心になったのが米国のアポロ一七号の月表面の岩石の特性を電波で探る計画でした。この実験で予想外のことが起こっていたのです。それは地球の様な結晶水を含んだ岩石と違い地下数キロまで電波が入つてかえる様子が見えたのです。しかしアポロは人間衛星ですからたった八時間しか実験ができず観測はほんの断片的だったため、なんとかこの観測を日本が本格的に進めたいという事になったのです。そこでクロウズアップされたのが当時東北大学の私の研究室で開発し宇宙科学研究所の科学観測衛星に搭載されてきたブラズマレーダーサウンダーでした。同じ機能を月地下探査用にデータ検出法をかね発射電力を八〇〇ワットまでアップすることにし

ました。

二〇〇〇年三月前任大学を定年退職し福井工業大学に赴任するにあたりチームの主任研究者は後継者の東北大学理学研究科の小野高幸教授が勤め、当福井工業大学・宇宙通信工学科も月レーダーサウンダー研究班として今回の観測データの解析を始めます。

月上空一〇〇キロメートルを飛翔する探査機「かぐや」には一四項目の観測器が搭載されています。月の鉱物を太陽から到来して反射するX線を分析したり、反射光や赤外線を分析して決定する観測機の種類と月の地形を詳しくはかるレーザレーダーそして詳細な地形写真を取る観測器などですが月の構造を知るための重力分布をはかるため、子衛星も分離しています。また月の裏側に「かぐや」がある時も観測可能にするためテレメータの電波リレーのための子衛星も分離しています。

福井工大のかかわる月レーダーサウンダーは月の地下構造を調べることから月の成因の究明にかかわる観測の種類の一つと数えられています。月が如何に誕

生したかその謎はまだ十分に解決していません。米国のアポロ計画によって謎を解く鍵は幾つか与えられました。例えば月の表面の円形の凸凹地形、クレーターは、様々な大きさの隕石や微少天体の衝突痕で、太陽系の多くの天体に発見されたクレーターが全てこうした微天体が集まって出来たことが確認されています。この微少天体の集まりはトーナメント試合の様に次々大きくなりながら相手を吸収し太陽を巡る地球周辺軌道では最後に月と地球が残りました。しかし月と地球の優勝戦で、月が合体せずに擦り抜けたという考えと地球に合体する様、大衝突した地球の八〇分の一に当たる部分が周辺に飛び散って現在の月になったという考えが未解決に残りました。

月地下探査は表面二キロメートル程ですが月の表面が一度溶け固まって行く様子などの分析によって、月の熱の変化の状態が明らかになれば大きな衝突があったかどうか解く鍵になります。月レーダーサウンダーは昨年一〇月一五メートルのアンテナを四本予定どおり伸ばし宇宙

電波や地球からのオーロラ電波の受信を確認しましたが、二月には五メガヘルツの短波電波で月面と地下探査のレーダー電波が発射され図1にあるようにクレーターからの複雑な反射電波をとらえ、あらかじめ実施していたシミュレーションの結果と同じことが確認されました。

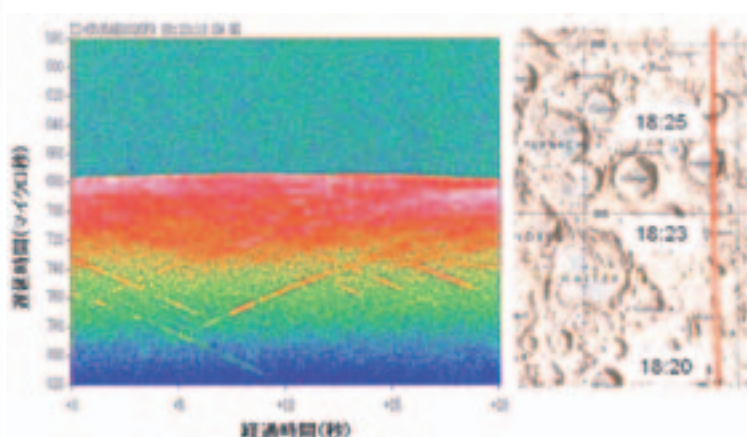


図1. LRSサウンダー観測結果(平成19年11月20日 18:22:50-18:23:10の20秒間における観測データ並びにかぐやの軌道。ポアソン(Poisson:30.4S/10.6E)付近)

そしてこのエコーのなかから図2にあるような月地下の割れ目を見だしています。まだ観測は始まったばかりですが、多くのデータを集め発見があることが期待されています。そして「かぐや」の成果はまた新たな謎を生み次の月探査計画へと繋がる事でしょう。

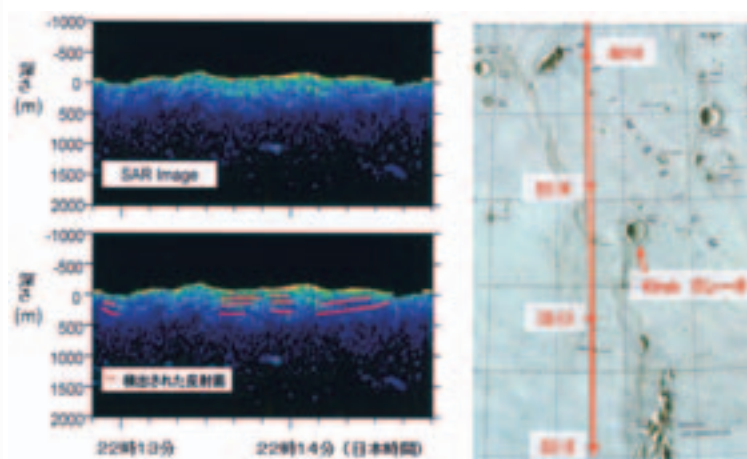


図2. 平成19年11月21日 22:13-22:15(日本時間)に得られた雨の海北東部 Kirch クレータ(39.2N/5.6W 直径11km)付近の解析結果

左上図では、衛星直下の比較的浅い領域に焦点を当て、深度500m程度まで存在する反射面を合成開口処理により検出した結果を示しています。

左下図には左上の画像中に同定された反射面をなぞった線が書き込まれています。



オープン・リサーチ・センター — 研究活動の報告 —

研究代表者 城田 靖彦 (環境・生命未来工学科・教授)

資

源・エネルギー・環境問題は、人類が直面している最重要課題である。

温室効果ガスである二酸化炭素の排出削減方策に加え、エネルギー・環境に関する科学技術のイノベーションによる解決が求められている。

平成十七年に活動を開始した本学オープン・リサーチ・センター（ORC）の研究プロジェクトは、「次世代環境調和型科学技術の研究開発」のテーマの下に、持続可能な社会の構築に貢献する科学技術の推進を目指して、「エネルギーの有効利用」「生物資源の有効利用」「環境汚染への対応」「地球環境の監視と保全」に関する研究に取り組んでいる。ORCの趣旨に沿って、他大学との共同研究や産学共同研究、国際共同研究などオープンな体制で研究を推進し、その成果を国際会議や国内学協会の年次大会・討論会で発表するとともに、論文として公表してきた。昨年八月には、過去二年四ヶ月間の研究成果と活動の記録をまとめ、中間報告書を作成した。研究の具体的な内容は、水素の分析・貯蔵技術、固体高分子電解質型燃料電池・有機太陽電池・有機EL素子の作製と評価、植物由来のバイオマス・微生物由来の酵素・有機廃棄物系バイオマスの有効活用、有害金属、その他の環境汚染物質の除去・無害化、大

気・水・湖沼・海洋等の地球環境の監視と保全等に関するものである。青山隆司教授の「若狭湾の赤潮発生条件の解析と予測」、加藤芳信准教授の「衛星リモートセンシングによる福井豪雨の被害検出」草桶秀夫教授の「ホタルの光の点滅時間」に関する研究成果が福井新聞、日経新聞等に報じられた。

これまでの活動として、公開研究成果発表会を三回、公開講演会を三回、公開セミナーを九回、国際会議を一回開催した。また、北陸技術交流テクノフェアに出展した。本学ORCの活動を記したニュースレターの刊行は、本年三月で第五号を数える。平成十九年度公開研究成果発表会は、福井自治会館で三月十四日に開催した。学内外の方々のご参加をいただき、研究の進捗状況と今後の発展について活発な討論を行った。平成十九年度の公開講演会は、本学「未来塾」プロジェクトおよび産学共同研究センターとの共催で、昨年十一月に本学金井講堂で開催された。約三百五十名の学内外からの聴衆を前に、福井新聞社論説委員 大塚潤三氏をコーディネーターとして、ORCメンバーの畠山兵衛教授、草桶秀夫教授、高島正信教授のほかに、環境・生命未来工学科の島田幹夫教授、地球温暖化防止活動推進員 笠羽末子氏を加えた

計五名のパネラーにより、「環境に優しいエコとは？」の主題で、熱のこもった討論が行われた。

昨年九月に、ORCメンバーの羽木秀樹教授が（社）日本金属学会 学術貢献賞を受けられた。これは、同氏の水素分析技術に関する優れた研究成果が認められたものであり、本プロジェクトにとって誠に喜ばしいことであった。また、同氏は、昨年十一月に本学で開催された（社）日本金属学会・日本鉄鋼協会北陸信越支部 平成十九年度連合講演会のお世話をされた。その講演会および三月七日に開催された（社）日本機械学会北陸信越支部講演会において、城野政弘学長が特別講演をされ、聴衆を魅了した。





大学の研究活動と社会貢献について

岡田 東 一 (前機械工学科・教授)

そもそも研究という人間の営みは、個人の科学・技術的好奇心に端を発して真理の探求へと長い道のりが続くという人間独自の行動パターンである。その課題が大きければ大きいほど、またその中身が深ければ深いほどその研究のたねは数を広げて行き、研究の「労作の収束」には時間がかかるのが常である。研究には終わりといいものがないから「労作の収束」という表現は適当ではなく、むしろ「果実の収穫」というべきである。

研究といえば常に思い出されるのは以下のような実話である。京都大学のある大先生が若いころ非常に単純な疑問、『人間はなぜ眠らなくなるのだろうか？』また『人間はなぜ眠らないと生きてゆけないのだろうか？』というテーマにぶつかった。数十年の間、この問題に立ち向かった先生はついにその正体を（立体化学構造式までも）突き止めるに至った。その長期にわたる研究の過程で、テーマの最前線を拡大した研究者のうちから五十名を越える教授が生まれたという。数年前までは、ノーベル生理学賞発表前夜にはわが国ではこの先生ほか二名の著名な先生のご自宅の周りには、張り込みの新聞記者たちがひしめき合っていたという伝説が残っている。



上記のお話のうちで私が特に興味を持った点はこの大先生は長年に亘る研究の過程で、教授五十名以上をプロデュースしたという点であるが、大学における研究というものの本質を見る思いがするということである。まず研究の狙いは（１）人類の福祉のためであることと（２）ライフワーク風のものであること。

研究論文を一つまとめる段階になると、おそらく十個以上の問題に新しい研究テーマが生まれることは私たちがよく経験することである。テーマが大きければ大きいほど研究論文は数を増し、研究の範囲は広がりを見せ、多くの研究者をまきこんでゆく。教授五十名といえはこの大先生の弟子、孫弟子たちがよってたかって千個を越える新しいオリジナル論文を生み出したであろうことは、容易に想像できる。上記の「眠り」に関する

純粹な学問的疑問の広がりには、おそらく「不眠症の治療」あるいは「不眠症の治療薬開発」などの実用的医療活動へ直接的な社会貢献につながる事は容易に想像できる。

大学における研究テーマは、永続性のある大きな夢を含む内容のものが望ましいといえる。なぜなら、目先の利益追求のための研究は短期間で収束しやすく、あるいは短期間に収束することを余儀なくされることが多い。研究のレポートは、研究テーマの下に①研究する人材、と②研究費（金）そして③研究場所の強固なコンベネーションから構成される。理想的には、この三つの要素に永続性があることが望ましいが、現実問題としては研究費は単年度制であり、研究する人材には期限があり（博士課程の院生、ポスドクなど）そして研究の場所も恒久的ではない場合が多い。したがって、現実には外部資金を頼りに研究を遂行していくには、短期間で別のテーマに切り替えて行かねばならない。現実の産官学共同研究や地域共生的連携プロジェクトは、研究の修羅場であり、正念場である。その現場で試練を乗り越えた研究こそが、現実の研究領域を拡大し、多くの共同研究者を育て、そして大きな社会貢献に到る可能性を秘めているのである。

一〇〇八年度の就職戦線は、ここ数年で最も環境的に恵まれていたのではないだろうか。これまでの就職氷河期は完全に終結し、売り手市場に変化、一部の業界や学生側からみると、第二次就職バブルの到来と言われるほどです。

しかし、求人企業数、求人数ともに増加したからといって、誰でも簡単に就職できる訳ではありません。企業は自社が本来に必要とする人材を採用するために、従来より厳しい選考をしています（採用の厳選化）。

今の時代は、基礎学力、専門知識を身につけるだけでなく、それを職場や社会で活かすことのできる「前に進む力」、「考え抜く力」、「チームワーク」など、社会人として持つべき基礎能力が問われています。

就職支援課の目標は、学生一人ひとりに満足のいく就職をしてもらうことです。そして、卒業して五年後、一〇年後に企業の中核で活躍し、社会人として幸せな生活を送ってもらうことです。この目標を実現するために、四年間を通じて、さまざまな方向から支援を行っています。

まず入学時、オリエンテーションにおいて自己発見レポートとキャリアガイド



学内企業合同説明会風景

ンスを実施します。自己発見レポートとは、自分の潜在能力や可能性を客観的に把握し、大学生活を通じて伸ばしていく部分、改善すべき箇所などの目標設定につながるものです。キャリアガイダンスでは、本学において就職内定に至るまでの成長記録を残せるキャリアサポートブックを全員に配布し、全ての学生が有意義な学生生活を送れるよう助言・指導をします。さらに、それぞれの学科で取得可能な資格を紹介した冊子を配布します。

本学の就職サポートについて

就職支援課

二年生では、県内優良企業を訪問し、事業内容、先端技術、具体的な仕事内容について学ぶ業界研究セミナーや、社会の第一線で活躍されている本学出身の

FUT 就職・キャリア支援プログラム

1年次からスタート、早期に就職意識の向上を図ります。

1年	・新入生オリエンテーション ～Career Support B00k配布～ ・自己発見レポートの実施 ・自己発見レポート活用ガイダンス ・人間力養成講座
2年	・業界研究セミナー(企業見学会) ・企業人材養成講座(企業に受入れられる人間力を養成)
3年	・インターンシップ説明会及び体験報告会(インターンシップ概論の受講事前説明会) ・インターンシップ概論(4月～10月) 事前教育⇒実習(夏休み)⇒事後教育 ・就職システム講習会(7月) ・第1回就職ガイダンス(7月)「就職活動 今なにをすべきか」 ・職業興味検査(10月)(自分の就職適性傾向を知る) ・第2回就職ガイダンス(10月)「本年度の状況と次年度の見通し」 ・産業・職業研究セミナー(10月)「企業トップによる講演」 ・就職試験対策セミナー(11・12月) ～筆記試験対策、履歴書・エントリーシート対策、面接対策等～ ・第3回就職ガイダンス(11月)「内定者(4年生)の就職活動体験発表会」 ・就職希望調査および個人指導 ・第4回就職ガイダンス(11月)「進路の手引きの説明と具体的な就職活動の進め方」 ・第5回就職ガイダンス(1月)「学内企業合同説明会の説明」 ・学内企業合同説明会(2月) ・個別面談、指導(履歴書添削、模擬面接)
4年	・学内企業合同説明会(4月) ・学内企業説明会(5月～9月) ・個別面談、指導 ※随時、学生の就職活動を就職担当教職員がチェックし、適切な指導を行います。

若手先輩を招き、企業が求める人材を養成するための講座を行ってもらっています。

三年生からは「就職」に向けた本格的なサポートのための実践的な支援プログラムを開始します。年五回開催している就職ガイダンスでは、自己分析からはじまり、業界・企業研究、就職に関する手続き、そして採用に至るまでの詳細な説

明を行います。

また、夏休みを利用して企業や自治体での就業体験を積むインターンシップ、県内の各業界の代表者を招き、自らの人生と職業について講義していただく職業産業研究セミナー、さらには就職試験のための対策セミナーも行っています。

十二月より、具体的な職業希望調査や個人面談を始めます。

二月には、学内企業合同説明会を開催し、実質的な就職戦線のスタートとなります。本年は二月六日から六日間行われ、全国から約三九四の企業・官庁が参加しました。学外でも、この頃より企業説明会や会社訪問が本格化し、学生は内定獲得に向けて、目指す企業と直接接触、応募書類提出、筆記試験、そして面接へと臨んでいきます。

以下の表は、四年間の就職サポートについてまとめたものですので、ご参考にしていただきたいと思います。

なお、毎年五月下旬から六月にかけて、地区懇談会を開催しますので、就職に関して疑問な点がございましたら、何なりとご質問していただければ幸いです。

保護者の皆様方には、今後あらゆる方向から学生たちの希望に沿った就職サポートを行っていききたいと思いますので、さらなるご支援を賜りますようお願いいたします。



在学中の 資格取得を バックアップ

日 本の経済社会が情報技術の進展、産業構造の変化および経済活動のグローバル化など大きく転換している中、企業は新しいことに挑戦する意欲が旺盛で、専門的能力を身につけた即戦力となりうる人材を求めています。大学時代に何を勉強し、どのような能力や技能を持っているかということが、就職にあたってとても重要になってきているのです。

こうした状況に対応するため、本学では平成十二年度から冊子「就職活動に有利な資格に挑戦しよう」を刊行し、全学生に配布しています。この冊子では、各学科が推奨する資格を初心者レベルから高度な資格まで計画的にアレンジし、関連する授業科目や相談できる教員名、費用などを一覧表にしています。

また本学では、在学中に専門的な資格取得に挑戦する学生諸君を全面的にバックアップするために、学内教員や外部講師による特別講座を開講してい

平成19年度 学科別資格取得状況表

平成20年1月31日現在

資格名	電気 電子	機械	建築	地球環境 (土木)	環境生命 未来	経営情報	宇宙通信	原子力 技術応用	大学院	合計
高等学校教諭一般免許状(工業)	9	11	9	4	3					36
高等学校教諭一般免許状(情報)						4				4
放射線取扱主任者第1種								1		1
放射線取扱主任者第2種								4		4
機械設計技術者3級		1								1
非破壊試験技術者 (超音波探傷試験レベル1)								4		4
第3種電気主任技術者(理論)	2									2
第3種電気主任技術者(機械)	1									1
第1種電気工事士	1									1
第2種電気工事士	8									8
基本情報技術者		1				4				5
初級システムアドミニストレータ	5					4		1		10
ガス溶接技能		2								2
CAD利用技術者2級		1								1
中古車査定士		27								27
二級建築士									1	1
宅地建物取引主任者			3	2		1				6
施工管理技士2級(学科試験)			2							2
福祉住環境コーディネーター2級			1							1
福祉住環境コーディネーター3級			1							1
カラーコーディネーター3級										0
測量士				1						1
火薬類(取扱)保安責任者				1						1
危険物取扱者(乙種全類)				1					1	2
危険物取扱者(乙種1,2,3類)								1		1
危険物取扱者(乙種4類)	3			1						4
一般毒物劇物取扱者					1					1
マルチメディア検定 2級						1				1
マルチメディア検定 3級						17				17
CGクリエイター検定 (Webデザイン部門2級)						1				1
CGクリエイター検定 (Webデザイン部門3級)						1				1
CGエンジニア検定 (CG部門3級)						10				10
CGエンジニア検定 (画像処理部門3級)						2				2
MOS Excel 2003 Expert						3				3
MOS Word 2003 Expert						3				3
MOS PowerPoint 2003						1				1
MCAS Excel 2007						4				4
合 計	29	43	16	10	4	56	0	11	2	171

ます。大学の教室を利用し、大学の講義終了後の受講時間を設定していますので、授業との両立が可能です。そして講座の講義は合格者を数多く出している実績・実力のある講師陣が担当し、

疑問・質問にもきめ細かく対応します。しかも一般の各種専門学校に比べ受講料が格安の料金で受講できます。別表は平成十九年度に在学学生が取得した資格の一覧です。

学生には本年度より冊子「資格取得支援講座ガイド」を配布しPRしますが、保護者におかれましても、是非各種講座にチャレンジするようお奨めをお願いします。

原

研究室では「環境問題を光化学で克服する」をキャッチフレーズに研究を行っている。具体的には環境ホルモンや工業用材料の原料の光物性を明らかにし、その光分解性を検討している。身近なものでいえば食品や消臭剤に含まれているデキストリンも対象としている。それらをレーザーフラッシュフォトリシスや核磁気共鳴法などの分光測定を用いて研究を行っている。

私は本大学（故嶋森洋研究室）および大学院（故高椋節夫研究室）出身であり、そのうち大阪大学大学院で博士号を取得している。その後縁あって、恩師がいらいした同じ場所で、ご指導いただいた顔なじみの先生や著名な先生方の中で研究室を構えている。

研究室行事は研究発表として、日本化学会近畿支部北陸地区講演会及び研究発表会五件のポスター発表を行った。自分の研究内容を人前で発表し、説明する難しさ、また、自分よりも詳しい他団体の教員や学生による質問への対応など、すべてが初めての体験を学生にみっちり味わってもらった。その中で、半ば限界を感じて諦めかける学生もいたが、中には他の研究者との議論の中で、わくわくするものを感じた学生がいたことに昔の自分を重ねあわせ、研究に一層の磨きを懸けようとあらためて思い直した。

研究室を訪ねて

Laboratory visit

光化学を用いて、次世代の環境問題に挑む



環境・生命未来工学科・准教授

原 道 寛

学会の他に地域貢献の一環として、環境・生命未来工学科の先生方や事務局の職員さんたちと一緒に、FUT科学実験キャラバン隊のスタッフとして、「誘遊倫 おもしろフェスタ in サンドーム福井・福井市立清水中学校文化祭・福井市立どんぐり児童館・つばき児童館」「出張模擬実験 in 岐阜工業高等学校・加茂農林高等学校」「青少年のための科学の祭典福井大会」など十

数のイベントに対して、積極的に研究室の学生を参加させた。始めは半ば強制的に参加を促したため、先生に言われたから：という感じであったが、いつの間にか他の研究室の学生を手伝いに呼び込んだり、教員が指示をしなくても率先して行動したりし、自分のすべきことを的確に見つけ、生き生きと行事を行っていたことに感謝もし、頼もしくさえ覚えた。また、科学の楽し

さを自分で味わうだけでなく、人に教える楽しさなども感じている学生がおり、研究とは少し違った体験を味わえられたと思う。

着任してから三年間研究室を運営するにあたって困難に感じていることは、学生との時間があわず、集中して議論や指導する時間が得にくいことである。これは学生から見ると、先生はいつも授業や出張で不在、頑張っているデータを見てももらえないとの不満がある。このことに対して、ネット利用とポイント制を導入し、私の授業や会議、出張日を公開するとともに、学生の就職活動なども記入させ、ネット上で情報を共有できるようにした。また、実験データをすぐにレポートにまとめ、私宛てにメールで送信させるとともに、完成するまでメールでやり取りを繰り返す方法をとつ

た。また、一週間に一回必ず週間報告会を行い、自分の実験結果などを発表させ、それらをもとに、HARALAB POINTとして集計し、学生に公表している。これにより、各個人のモチベーションを上げる一つとなっている。

今後、原研究室では他の研究室や他学科、事務、地域の方とのコミュニケーションを図り、人間のふれあいから起こる化学反応を楽しませながら、活動ができたかと思っている。また、研究というフィールドに早く学生を引き込み、体感させ、社会に出る前に、TVゲームなどの2Dの世界よりももっと楽しく、時には厳しく、刺激的な世界を実感させたいと思っている。最後に、自分の限界を知らない学生は成長しない。しかし、その限界を実感させ、認識させた上で、手をかけてあげればあげるほど成長する」と心に思いながら、研究室で過ごしていこうと考えている。



「宇

宙観測」という言葉を聞くと、みなさんはどのような印象を持たれるでしょうか？「本当にそんなことが自分たちの身近な所でできるのかな？」といったところでしょうか。

スケールの大きな話や画期的な発明・発見は、どこか遠くで行われるもので、まさか自分の身近にあるなんてなかなか信じられないかも知れません。

しかし、本学は他大学にはない宇宙観測設備をあわらキャンパスに設置しており、宇宙通信工学科では、その観測設備を用いて日々宇宙観測を行っています。このようなことは、私立大学ではもちろんのこと旧国立系の大学でもほとんど経験できないことです。

一．10mパラボラアンテナを用いた宇宙観測

あわらキャンパスの宇宙観測設備の中心となっているのが、直径10m、高さ20mのパラボラアンテナです。

このアンテナを用いた宇宙観測例を二つ御紹介します。その一つは、既に福井新聞などで報道がなされた銀河中心ブラックホールの観測です。この研究は、当学科の大家寛主任教授が東北大学時代から行ってきた研究テーマで、従来、銀河中心ブラックホールは一個しかないと考えられていたことに対して、実は二十七個ものブラックホール

研究室を訪ねて

Laboratory visit

宇宙観測の拠点としてのあわらキャンパス



宇宙通信工学科・講師

中 城 智 之

な研究です。大家研究室の学生である西阪飛鳥さんが膨大な時間の観測に加わって、今年度の修士論文（電気工学専攻）としても提出されました。

もう一つは、日本が打ち上げた宇宙空間観測衛星「あけぼの」の電波受信です。「あけぼの」は地球周辺の宇宙空間を調べることを目的とした衛星で、本学では二〇〇三年から「あけぼの」が送信する信号の受信および解析を行っています。現在は、昨年九月に打ち上げられた日本の月周回衛星「かぐや」との共同プロジェクトとして、オーロラ発光に伴って放射される電波を「あけぼの」と「かぐや」で同時観測し、電波放射のメカニズムを探る研究がスタートしました。このスタートにおいて、武村輝君（大家研究室）の今年度の修士論文（電気工学専攻）の内容が重要な基礎となっています。西

阪さんと武村君は大学院博士課程への進学が決まっております、今後の研究の進展が期待されます。

二．惑星電波観測プロジェクト

私が直接に関わっている研究テーマとして「木星デカメータ電波の観測」をご紹介します。私たちが住む太陽系には、地球、木星、土星のように、磁石の周囲に生じるような磁場を持つ惑星があります。このような惑星の極域ではオーロラが出現しますが、同時に強力な電波が放射されます。このよう

な電波の中で、特に木星の「木星デカメータ電波」は地上から唯一観測可能な電波として注目されています。あわらキャンパスでは三基の対数周期アンテナを用いた連続観測を続けており、現在、東北大学、情報通信研究機構・鹿島宇宙技術センター、高知工業高等

専門学校との共同観測プロジェクトに参画しています。このプロジェクトは、各観測局で木星デカメータ電波を同時受信し、電波の詳しい放射源位置を特定することを目的としたものです。当学科では並行して、このプロジェクトに役立つ人工衛星を学生と考案中で、来年度の「人工衛星設計コンテスト」への参加も予定しています。近い将来、このような惑星電波観測の手法が、私たちが住む太陽系以外に存在する惑星系の探査などに役立つときが来ると夢見ています。

三．今後の展望

あわらキャンパスでは、今回紙面の都合で割愛した「太陽電波の観測」も含めた多様な最先端の宇宙観測が行われています。今後、教員と学生が力を合わせて観測を続け、宇宙観測の拠点として頑張っていきたいと思っています。



本学が参画している木星デカメータ電波観測ネットワーク

本学に赴任して



環境・生命未来工学科・講師

石黒直哉

本学に赴任して二年の月日が過ぎ去ろうとしています。

私は道産子埼玉育ちですが、福井県立大学の一期生として入学し、大学院博士課程終了までの九年間を福井で過ごしました。学位記第一号を頂き、その後五年間、東京大学海洋研究所にて研究を続けてきましたが、大学・大学院時代を過ごした福井のために一杯働こうと心に決めて福井に戻って参りました。二年目も終わりに近づき漸く少し落ち着いてきて、教育の難しさと楽しさを実感してきております。

専門は分子生物学です。本学には生物系の先生は少数なので、他学科の学生にも一般

教養の生物を教えています。

しかし、環境・生命未来工学科、特に生命・バイオコースの学生に対して一般の生物学の楽しさを教えたり、分子生物学、遺伝子工学などといった専門的な科目を教えたりする場をもっといただきたいなと思うときもあります。

さて、様々な講義や実験実習を受け学生が最後に辿りつくのが卒業研究です。このときは、卒業生の誰もが凛々しく見えます。就職活動などを経験して一回り大きくなった彼らは、自らが取り組んだ卒業研究に対して理論的に説明をし、質疑にもしっかりと対応しています。本学には各研究分野の第一線で活躍されてきた先生が数多く在籍しています。ですから卒業研究のテーマも非常に高度です。私の研究室でも、各学生の取り組んだ研究は国内外の学会で発表しています。そういうレベルの研究をしていると

いうことに自信と誇りを持ってもらいたいと思います。学生自身にその意思がある場合には、自ら研究発表もしてもらっています。例えば昨年は、大野市で開催された湧水保全フォーラム全国大会でポスター発表をし、秋篠宮殿下に対してご説明しご質問を受けるという、普段では滅多に経験できないことを学生達は経験しました。

最後に、学生一人ひとりが、今自分は何をすべきなのかを考え、すべきことを遂行して欲しいと思います。失敗を恐れず、失敗したときには何故そうなったかを考えて再度立ち向かっていく気力を身につける手助けをしていけたらと常に考えています。



機械工学科・講師

山下清隆

本学に赴任してから二年が経ち、卒業研究で私の研

究室に配属される学生との差が十歳になりました。私が大學生生活をしていた十年前に比べ、現在はさまざまな情報が氾濫錯綜し、目先の利益に終始する傾向があります。そのような風潮もあってか、耐震強度偽装問題、食の安全性への疑問などエンジニアとしての倫理性が厳しく問われる事件が多発しています。

このような社会的環境の中ではありますが、私が本学の学生との日々のコミュニケーションとは、勉学のみならず色々な事に興味をもち真摯に取り組む学生が大勢いることです。彼らは健康・明朗で中庸な好青年であり、年齢の離れた我々とも盛んに議論し研究室を明るく活性化しています。本学の特色ある授業科目であるFTH（フリー・トークン・アワー）や創成科学などを通して、研究室で教員と近い距離で議論した事が良い経験であったようです。また本学には、基礎的な物理・数学・英語について教員に相談が出来る学習支援室があり、個人指導による学習暦に応じた

支援を行ないつつ実際に手を動かして考えてみる事の大切さを伝えていきます。このような環境を持つ本学で大学生活を過ごした経験は、実社会でエンジニアとして活躍する上で非常に大きな武器になると信じています。

私の専門は振動工学であり、講義、実験、卒業研究などを担当しています。機械工学を行なう上で数学、物理学に習熟することはもちろん必要ですが、それに加えて現在対象としている物理現象の本質は何であるのかを見抜くことは非常に大切です。そのことを問い、そして見抜く力が身につくような教育が出来るように努力しています。機械工学は、実社会に出たときに応用性が広い大変魅力的な学問分野です。ここで培われた本質を見抜く洞察力は、今までに経験のない問題に直面した時それを突破する力になると考えられます。学生と共に、このような立場からの研究や教育を通して私自身も学んでいきたいと考えています。

「第十三回北陸の家づくり設計コンペ」において、建設工学科建築学専攻四年の綿孝征君が、作品「ロウジとスノーランタ」で、たんぼ賞を受賞した。



綿 君

「ふくいソフトウェアコンペティション二〇〇七」において、経営情報学科四年の谷澤拓君が福井県ソフトウェア大賞、同三年の中村哲君が優秀賞、電気電子工学科四年の竹節大輝君が奨励賞をそれぞれ受賞した。



谷 澤 君



中 村 君



竹 節 君



世紀のダ・ビンチを探せ「国際アートトリエンナーレ二〇〇七」において、建設工学科建築学専攻四年の高澤徹君が独自で開発した「三百六十度の視野を持つ遠近法」を使用した作品で入選した。



高 澤 君

創成科学賞

平成十八年度後期の受賞式が行なわれ、努力賞三名が選ばれた。「創成科学」の授業では、普段の学生生活で修得した知識や培われた想像力を活かして、自身が選んだ問題を自らの力で解決に導いていきます。今回の受賞者は次のとおりです。

●創成科学努力賞



機械工学科二年 竹島伸昌君
【テーマ】

「福井工大における
車イス使用者のアクセス
パートII」

●創成科学努力賞



機械工学科二年 倉元伯行君
【テーマ】

「学生フォーミュラの
加速性能の評価」

●創成科学努力賞



経営情報学科三年 中村 哲君
【テーマ】

「エイトクイーン問題
について」

平成十九年度前期の受賞者は次のとおりです。

●創成科学努力賞



建築学専攻二年 池田拓哉君
【テーマ】

「紙の折り方と
強さ調べ」

●創成科学努力賞



環境・生命未来工学科二年 柴原健作君
【テーマ】

「消せるボールペンの
仕組み」

TOPICS

がんばってます



富松 君



小林 君



谷本 君



畑中 君



高浦 君



都丸 君



大山 君

機械工学科

電気電子工学科

建設工学科(地球環境)

建設工学科(地球環境)

建設工学科(建築)

経営情報学科

機械工学科

高浦 靖

都丸 真一

大山 卓浩

富松 隆浩

小林 弘典

谷本 晃一

畑中 和昭

理事長賞

三月十五日の学位記授与式において次の七名の学生が受賞した。



勝木 君



蓑島 君



脇田 君



藤田 君

宇宙通信工学科

経営情報学科(マルチメディア)

環境・生命未来工学科

建設工学科(地球環境)

建設工学科(建築)

機械工学科

電気電子工学科

奥野 真衣

谷澤 拓

田中 郁江

勝木 謙次

蓑島 聡志

脇田 和弥

藤田 雄一

学長賞

三月十五日の学位記授与式において次の七名の学生が受賞した。



奥野 さん



谷澤 君



田中 さん

特別奨励金(平成19年度)

資格・成績など	奨励金額	人数
第1種放射線取扱主任者	¥200,000	1名
3級機械設計技術者	¥100,000	1名
第2種放射線取扱主任者	¥100,000	4名
基本情報技術者	¥50,000	5名
簿記検定2級	¥50,000	2名
宅地建物取扱主任者	¥50,000	3名
2級建築士	¥50,000	1名
第1種電気工事士	¥50,000	1名
初級システムアドミニストレータ	¥10,000	9名
Microsoft Office Excel 2003 Expert	¥5,000	16名

資格・成績など	奨励金額	人数
危険物取扱者(乙種全類)	¥5,000	1名
第2種電気工事士	¥5,000	4名
マルチメディア検定エキスパート(2級)	¥5,000	1名
福祉住環境コーディネーター3級	¥5,000	1名
Microsoft office Excel 2007	¥5,000	1名
2007全日本学生陸上競技選手権大会 男子砲丸投げ 5位(ベスト8以上)	¥30,000	陸上
2007全日本学生陸上競技選手権大会 男子10000m競歩 7位(ベスト8以上)	¥30,000	陸上
6年連続北陸大学野球春季リーグ戦優勝	¥30,000	軟式野球



44th

「大学祭」と 「保護者キャンパス見学会、 講演会及び懇談会」を開催

恒例の大学祭も四十四回を数え、昨年の十月六日（土）から八日（祝）まで開催された。六日にフリーマーケット、七日はお笑い爆笑ライブ、八日にはアーティストがパフォーマンスや演奏を行ない、学園は「祭」一色に塗り替えられた。

テーマは「髓」―俺たちが中心だ―で、一人ひとりが中心となり、活動し、大学祭を盛り上げて骨の髓まで楽しもうと、開催者側から来場者側に向けて熱いメッセージが発信された。

全日程に楽しいイベントが盛り込まれ、来場された方々には、存分に楽しんでいただけたようです。



大学祭実行委員

大学祭と同時開催された「保護者キャンパス見学会・講演会及び懇談会」には、各地から多数の方が参加された。

まず、学園レストランにおいてキャンパスランチを食され、「今どきの学生、今どきの就職活動」というテーマの講演を聴講された後、より充実した教育や研究を推進するための多くの研究設備や実験室、FUTタワー等を見学された。

また、六月の地区懇談会に参加できなかった方及び、北陸地区において懇談を希望している方を対象にした個別懇談会も開催され、参加された保護者は、学業・就職・学生生活等に関することに質問や相談をされ、大変充実した一日だったようです。



「未来塾」開講

「人は見た目が9割」

今回は、コミュニケーションにおける「言葉以外の要素の重要性」を説くということ、九州大学の博士で演出家、劇作家の竹内一郎氏を招き、六月二日に講演会を開催した。

喋りはうまいのに信用できない人と、無口でも説得力にあふれた人の差はどこにあるのか。女性の嘘を見破りにくい理由とは何か。それらのすべての意思疎通を左右しているのは言葉ではなく、「見た目」である。

また、顔つき、仕草、目つき、匂い、色、温度、距離等々、私たちを取り巻く言葉以外の膨大な情報が持つ意味を説いた。

実例やミニレッスンをふんだんに取り入れた内容に、参加者からは「さっそく暮らしの中で活用を」との声が多く聞かれた。

身近なエコ活動を学ぶ

十一月十日、「環境に優しいエコとは」をテーマに、本学の教授陣がパネル討論をし、最新の研究成果などを発表して身近にできるエコ活動をアドバイスした。

本学の畠山教授、島田教授、草桶教

授、高島教授のほか、県地球温暖化防止活動推進員の笠羽末子氏が参加して意見を交わした。

草桶教授は、蟹の殻の成分「キチン」が健康補助食品や美容液などに活用されている点を紹介し、「エコ資源として暮らしに役立っている。殻は捨てずに天然の肥料として畑に蒔いて」と呼びかけた。また、高島教授は生物資源（バイオマス）の資源化が進んでいない現状を指摘した。

未来塾は今年で五年目。著名な講師を招いての講演会のほか、夏休みには小学生を対象にした科学教室も開催している。



「FUTフォーラム」開催

世界一の高さ（五百八m）を誇る台湾・台北市の複合ビル「TAIPEI 101」の現場責任者を務めた熊谷組・建築事業本部の青垣英夫氏が、「世界一のビル建設」と題して特別講演を行なった。

「TAIPEI 101」は、最先端の建築技術を駆使して二〇〇四年に完成した。青垣氏は、デザインに伝統的な色や形、風水を取り入れ、耐震強度を高めるために柱の太さや本数、組み方を工夫したことなどを紹介。「多くの企業や人が関わる現場では、十分なコミュニケーションの中で、自分のやりたいことや方法を強調することが重要」と話した。



街頭募金

昨年暮の十二月二十一日～二十三日までの三日間、福井駅前において恒例の「NHK歳末助け合い・海外助け合い街頭募金」活動に、本学応援団が協力をしました。

暖冬と言われながらも年末の厳しい寒さの中、「歳末助け合いにご協力をお願いします」と大きな元気な声で市民に呼びかけていました。学生時代のボランティア活動は、今後の人生において大きなプラスになるものと思われ

ます。また、寄せられた善意の募金はNHKに届けられます。



元気に活動「ありがとうございます」

「シンポジウム」開催

日本、米国、中国、韓国の外交官らが集い世界的な問題について考えるシンポジウム「平和と繁栄の実現をめざして」が七月二十九日金井講堂で開かれた。

各国の外交官、城野学長等がパネリストを務め、「環境・エネルギー」「平和・友好・教育」の二つの視点から意見を交わした。

環境問題では、温暖化防止の観点から日本が持つ原発技術の提供や原発技術者の本県での養成に期待する声が上がった。

一般の県民をはじめ、経済界や行政関係者、学生ら約五百人が聴講した。また、パネリストとの質疑応答も行なわれた。



「公開講座」開講

「放射線利用の最前線」

前期公開講座が六月十三日開催され、三人の講師が講演し、約二百五十人が聴講した。

放射線医学研究所の北川敦志氏は、外科手術に比べて負担が少ない治療法を解説。同じ放射線治療でも、従来のエックス線やガンマ線より体の健康な部位への影響が少ない炭素線や陽子線を用いた方法について、「がん細胞に集中して正確に照射できる点が優れている」と話した。

また、本学の南園教授は、科学研究や医療利用で「粒子加速器で加速した粒子ビームが放射線の最先端になってきた」と現状を説明した。



「福井のまちづくり特集in福井工大」

後期公開講座が、十一月十四日に開催され、一般市民、学生、教職員合わせて約三百五十人が聴講した。

今回は、地域の特色を活かしたまちづくりを、基調講演やパネル討論を通して考えてみた。

仁愛大学の金田明彦教授が「まちづくりと学生生活」と題し講演した後、「福井らしさとまちづくり手法」をテーマに、本学教授や行政担当者ら六人のパネリストが意見を交わした。また、聴講者との質疑応答も行なわれ、大変な盛り上がりを見せた講座であった。



卒業研究発表

本学では、大学四年間の勉学・研究の総仕上げとして、四年生全員に卒業研究が必修として課せられている。毎年四年生になると全員が各研究室に所属し、それぞれ独自のテーマを決めて担当教員の指導のもと、一年間じっくりと研究に取り組むことになる。卒業研究は単独で行ってもよいが、数人のグループによる共同研究のかたちも可能だ。その集大成とも言えるのが卒業研究発表会で、毎年一月中旬から下旬にかけて実施される。

発表は、グループ研究の場合でも担当部分を決めて単独で行わなければならない。また、この発表内容と卒業論文の総合判定によって、卒業単位の認定が決定するため、学生たちは緊張した面持ちで発表会に臨んでいた。



真剣そのものの発表風景



ポスターセッション

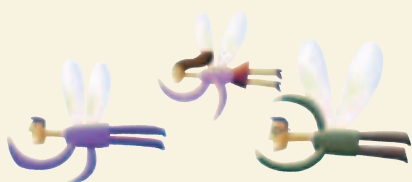
昨秋十一月十四日、二号館一階の学生ロビーを会場に「第十一回院生研究成果公開ポスターセッション」が開催された。院生たちが日頃の研究成果をボードで発表するイベントで、外部の方にもご覧いただくため、後期公開講座と同日に行われた。

会場には院生たちの発表ボードがずらりと並び、それぞれの研究成果をアピールした。

また、他学科の院生とお互いの研究内容について感想を話し合う姿も見られ、自分たちの成果を振り返りつつ、研究意欲を高めたようだ。



お互いの研究成果を話し合う…



成人式

「大人への気持ち新たに」

恒例の成人式が、一月十五日金井講堂で行なわれ、四百九十四人の人生の節目を祝った。

城野学長から「ひとつの物事にとらわれず、何かを行ないながらも一方でも何かを考えておくといった、社会に柔軟に対応できるよう、これからの学業に励んでほしい」とエールを送った。

新成人を代表して、経営情報学科二年の有田準規君が「夢に向かって一生懸命努力し、思いやる気持ちと今まで支えてくださった方々への感謝を忘れず、大人としての自覚を持って責任ある行動をとることを誓う」と力強く述べた。



クラブ紹介

▶▶ 空手道部

部員たちは
「文武両道」を目指し、
日々練習に勉学に
励んでいます。



空手道部が創部したのは今から41年前。当初は大会においてもなかなか結果が出せず、特に組手試合では悔しい思いを何度もしてきました。平成15年度からは現監督より毎日指導を受けられるようになり、ここ最近では、北信越大会で優勝するまでの実力となりました。着々と力をつけてきています。現在の部員数は、12名で午後5時より7時までクラブハウスにて「文武両道」を目指し、日々練習に励んでいます。



試合に出場するからには常に勝ちを目指しますが、大会で優勝するだけではなく、空手という武道を通じ礼儀を重んじ、まず社会に貢献できるような人間形成を第一と考えています。空手道部に4年間在籍して、本当に良かったと一生誇れるような部にしていきたいと考えてます。

部活動においては「人間としての芯の強さ」を、授業においては「学ぶことの喜び」を大学生活で身につけ、卒業後は立派な社会人として自立できるようこれからも部員一同一丸となって頑張っていきたいと思います。

主な戦績

- 北信越学生空手道選手権大会 個人組手・形 優勝
- 北信越大学空手道選手権大会 団体組手 優勝
- 全国空手道選手県大会（協会）団体 形 第三位
- 全日本学生空手道選手権大会（東西対抗戦）優秀選手受賞



Club Introduction

体育部会

平成十九年度 各クラブの主要戦績

The main result of each club of this year of one year

剣道部

Kendo

- 西日本学生剣道大会 (5/26) 団体戦 出場
- 全日本学生剣道選手権大会 (7/7) 団体戦 出場
- 北信越学生剣道優勝大会 (9/10) 団体戦 準優勝
- 全日本学生剣道優勝大会 (10/28) 団体戦 出場
- 全日本学生剣道オープン大会 (12/15) 個人戦 出場
- 中部日本理工系大学高専剣道大会 (1/13) 団体戦 優勝
- 北陸大学野球春季リーグ戦 (4/7) 第2位
- 北陸大学連盟新人戦大会 (6/16) 優勝

硬式野球部

Regulation baseball

馬術部

Horsemanship

- 北陸大学野球連盟私学大会 (8/8) 第2位
- 北陸大学野球秋季リーグ戦 (9/8) 優勝
- 明治神宮大会愛知・東海・北陸代表決定戦 (10/29) 出場
- 岐阜スプリングホースショウ (4/20) 標準障害飛越
- 中日本馬術大会 (5/11) 優勝 小笠原 輝
- 中部学生自馬競技大会 (6/20) 中障害飛越競技 団体1位
- 三種目総合成績 第2位
- 中部学生馬術選手権大会 (6/23) 優勝 上田 和昇
- 全日本学生賞典障害飛越競技大会 (10/31) 出場

バレーボール部

Volleyball

- 全日本学生賞典馬場馬術競技大会 (10/31) 出場
- 全日本学生馬術選手権大会 (12/8) 出場
- 森田杯北陸三県バレーボール春季リーグ戦 (4/8) 優勝
- 春季北信越大学男女バレーボール選手権 (5/17) 優勝
- 東日本大学バレーボール選手権 (6/21) 出場
- 秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男女選手権 (12/10) 出場

陸上競技部

Track and field sports

- 北信越学生陸上競技対抗選手権大会 (5/12) フィールドの部 第2位
- 日本学生陸上競技選手権大会 (6/8) 砲丸投 優勝 奥田 雄也
- 全日本学生チャンピオンシップ (9/7) 出場
- 北信越学生陸上競技選手権大会 (10/20) 砲丸投 1位 奥田 雄也
ハンマー投 1位 井上 明典

水泳部

Swim

- 中部学生短水路選手権水泳競技大会 (6/3) 出場

THE MAIN RESULT

● 中部学生選手権水泳競技大会(6/30)

400m個人メドレー

優勝 小林 佑輔

● 日本学生選手権水泳競技大会

(9/6)

出場

ソフトテニス部

Soft tennis

● 北信越ソフトテニスシングルス選手権

(4/1)

優勝 福田 勇気

空手道部

Karate

● 東日本大学空手道選手権大会(5/5)

出場

● 北信越学生空手道選手権大会(5/20)

個人組手 優勝 青木 昭史

個人形 優勝 川戸 達

● 全日本学生空手道選手権・東西対抗戦

(7/1)

出場

● 内閣総理大臣杯全国空手道選手権大会

(7/7)

出場

● 北信越大学空手道選手権大会(9/2)

団体組手 優勝

● 国民体育大会空手道競技(9/30)

出場

● 全日本大学空手道選手権大会

(11/23)

出場

柔道部

Judo

● 北信越学生柔道優勝大会(5/20)

団体2位

● 全日本学生柔道優勝大会(6/23)

出場

● 北国杯北信越学生柔道体重別選手権

(9/1)

個人90K級優勝 宮里 祐也

● 北信越学生柔道体重別団体優勝大会

(9/1)

団体優勝

● 全日本柔道体重別選手権大会

(10/13)

出場

● 湊谷杯北信越学生柔道体重別選手権

(10/28)

個人100K級優勝 日比 裕介

● 全日本学生柔道体重別団体優勝大会

(11/3)

出場

カヌー部

Canoe

● 全日本学生カヌー選手権大会

(8/28)

出場

● 日本カヌーフラットウォーター選手権

(9/6)

出場

サッカー部

Soccer

● 総理大臣杯全日本大学サッカー

トーナメント大会(4/29)

2位

● チャンピオンカップ大会(11/4)

優勝

ゴルフ部

Golf

● 北陸三県学生ゴルフ選手権(8/2)

個人優勝 伊藤 由衣

● 中部学生ゴルフ選手権競技(8/6)

出場

少林寺拳法部

Shaolin Temple Kung Fu

● 北陸学生大会(7/22)

組演武 二段以上

優秀賞 山本 祐也

組演武 段外

優良賞 高橋 誠・宮本 真希

軟式野球部

Rubber-ball baseball

● 全日本大学軟式野球大会(8/6)

出場

フットサル研究会

Futsal

● 全日本大学フットサル北信越大会

(7/7)

優勝



THE MAIN RESULT

平成二十年四月十日

福井工業大学後援会

会長 文珠四郎

博

保護者各位

定期総会と地区懇談会の開催について

早春の候 保護者の皆様方にはご壮健でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

平成二十年度の定期総会と地区懇談会の開催を別記のとおり、ご案内申し上げます。

地区懇談会は、学生の**成績・日常生活・就職**などの諸問題について、**先生と保護者が個別に話し合える絶好の機会**でありますので、ご都合のよい会場を選んで是非ご出席ください。

準備の都合上、同封いたしました用紙にご記入いただき、**四月三十日必着**でお出しますようお願いいたします。

平成二十年度定期総会

日時 平成二十年五月三十一日（土）午後一時～

会場 福井工業大学二号館八〇二号室

議題 ①平成十九年度事業報告並びに決算報告について

②平成二十年度役員選出について

③平成二十年度事業計画案並びに予算案について

総会終了後、

福井地区の懇談会を開催いたします。



懇談会風景

地区懇談会 開催案内

地 区	日 程	会 場		電話番号
福 井	5月31日(土) 総会終了後～	福井工業大学	福井市学園3-6-1	0776-29-2620
東 京	6月8日(日) 開会13:00～	アルカディア市ヶ谷	東京都千代田区九段北4-2-25	03-3261-9921
静 岡	6月8日(日) 開会13:30～	静岡商工会議所会館	静岡市葵区黒金町20-8	054-253-5111
和歌山	6月8日(日) 開会13:00～	ワカヤマ第2富士ホテル	和歌山市湊紺屋町1-20	0734-31-3352
岐 阜	6月8日(日) 開会13:30～	グランパレホテル	岐阜市金町80-20	058-265-4111
滋 賀	6月15日(日) 開会13:30～	彦根勤労福祉会館	彦根市大東町4番28号	0749-23-4141
三 重	6月15日(日) 開会13:00～	三重県教育文化会館	津市桜橋2-142	0592-28-1122
宮城・山形 福島・以北	6月15日(日) 開会13:00～	山形七日町ワシントンホテル	山形市七日町1-4-31	023-625-1111
兵 庫	6月15日(日) 開会13:00～	姫路商工会議所	姫路市下寺町43	0792-23-6551
新 潟	6月22日(日) 開会13:30～	長岡商工会議所	長岡市坂之上町2-1-1	0258-32-4500
長 野	6月22日(日) 開会13:00～	長野バスターミナル会館	長野市大字中御所岡田町178-2	026-228-1155
石 川	6月22日(日) 開会13:30～	石川県勤労者福祉文化会館	金沢市西念3丁目3番5号	076-234-2421
福知山	6月22日(日) 開会13:30～	中丹勤労者福祉会館	福知山市昭和新町105番地	0773-23-2216
愛 知	6月29日(日) 開会13:00～	安保ホール	名古屋市中村区駅3-15-9	052-561-9831
富 山	6月29日(日) 開会13:00～	高岡商工ビル	高岡市丸の内1-40	0766-23-5000
大 阪	6月29日(日) 開会13:30～	大阪駅前第3ビル17階	大阪市北区梅田1-1-3	06-6344-0205
京 都	6月29日(日) 開会13:30～	ビル葆光	京都市中京区室町御池南西角	075-211-4171
四 国	6月29日(日) 開会13:00～	徳島商工会議所	徳島市西新町2-5	088-653-3211

※駐車場に限りがありますので、なるべく公共交通機関等での来場にご協力をお願いいたします。

福知山

中丹勤労者福祉会館



兵庫

姫路商工会議所



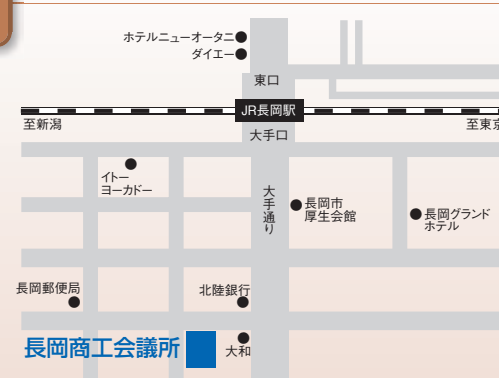
愛知

安保ホール



新潟

長岡商工会議所



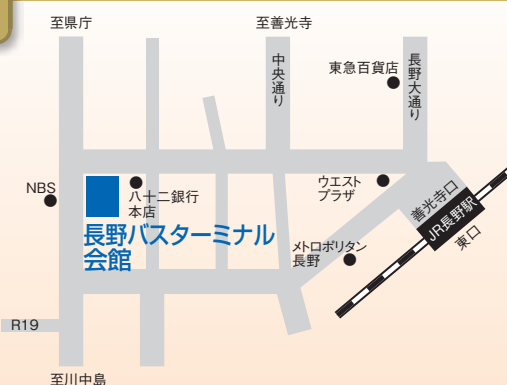
富山

高岡商工ビル



長野

長野バスターミナル会館



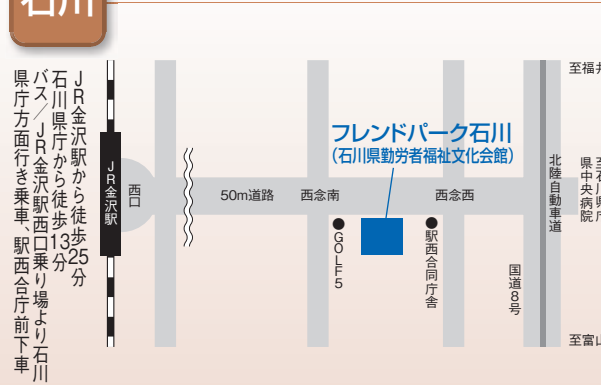
大阪

大阪駅前第3ビル17階



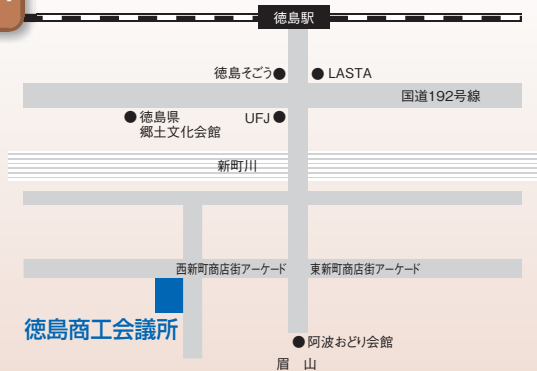
石川

石川県勤労者福祉文化会館



四国

徳島商工会議所



京都

ビル葆光（ホーコー）

地下鉄「御池」駅出口4-1より、
出口方向(西)に向かって100m



平成20年度 学 年 暦 (工学部)

【 前 期 】

平成20年 4月	1日(火)	学 年 開 始
	5日(土)	入 学 式
	7日(月)～ 12日(土)	全体オリエンテーション・学 科別オリエンテーション・前 期受講登録ガイダンス・Web 受講登録講習会・「自然と科学」集中講義・健康診断
	14日(月)	前期 授業開始 (全学年)
	28日(月)	学園休業日
5月	17日(土)～ 18日(日)	五月祭・体育祭(17日)・音楽 祭(18日)
7月	18日(金)～ 20日(日)	永平寺参禅研修(1年生学科別)
8月	7日(木)～ 9月23日(祝)	夏 季 休 業
9月	24日(水)～ 26日(金)	「自然と科学」集中講義
	27日(土)～ 30日(火)	後期受講登録ガイダンス
	30日(火)	前 期 終 了

【 後 期 】

10月	1日(月)	後期開始・後期 授業開始
	11日(土)～ 13日(祝)	大 学 祭
	14日(火)	大学祭 閉会式
	15日(水)	代 休
12月	22日(月)	学園休業日
	24日(水)～ 平成21年 1月6日(火)	冬 季 休 業
平成21年 1月	7日(水)	後期 授業再開
	中旬	学園 成人式(式典)
	下旬	卒業研究発表
2月	下旬	欧州工学研修旅行
	14日(土)～ 3月31日(火)	春 季 休 業
3月	14日(土)	学位記 授与式
	31日(火)	学 年 終 了

FUKUI University of Technology

すべてを学生のために

最先端の設備を備え、最先端工学を学ぶステージ。

それぞれの能力・適性・興味に応じて
一人ひとりの人生の可能性を限りなく広がります。

福井工業大学における兄弟学費減免奨学金制度について

この制度は、本学に入学した兄弟・姉妹について、保護者の経済的負担の軽減を図るために設けられたものです。詳細については、学生課(Tel.0776-29-7867)にご相談ください。